# 「СМЕ D 会のあり方」検討部会 平成 21 年度活動計画

## (1) これまでの実施経過

地区研修会(平成20年度)の意見取り纏め

- ・三者協議の積極的な活用方法
- ・意見交換会の具体的な効果等の検証
- ・広報活動の実施
- ・災害支援等の社会貢献の可能性検討
- ・設計、積算等の照査の支援可能性検討
- ・新規CMED資格取得者の活躍範囲の拡大
- 会員間の積極的な情報交換

## 意見交換会の意見取り纏め

- ・関係機関との意見交換会における意見の整理-----(平成20年12月~平成21年 3月)
- ・長い歴史に耐えるダムのために、CMED会の技術力アップと外部への提言などを期待する
- ・社会からダムの評価を適正に受けるには、行政やCMED会が連携した一般市民へのPRが効果的
- ・土木分野の優秀な学生の確保が課題であり、СМЕDの熱き語り部による社会との繋がりを期待する
- ・災害時の対応等に、ダム技術による社会貢献が大いに期待される

## 会員アンケート-----全CMED会員を対象にアンケートを実施

会員アンケートの実施と分析,概略検討-----(平成20年10月~平成21年4月)

- ・現場支援等の可能性検討
- ・今後実施すべき調査研究活動の方向性
- ・人材(OBを含む)活用案

具体案の検討-----(平成21年 4月~ )

- ・長期的な視野に立った組織(案)
- ・CMED会の具体的な活動計画(案)
- ・その他:CMED会の活性化方法など

## (2) 今後の活動方針-----第22回総会では、今後の活動計画として以下の内容を報告

現場支援: 支援方法、三者協議の方策等

人材育成,活用 : 若手技術者への技術継承

OB会員の活用方法

組織のあり方 : 独立性を含めた組織のあり方

\* 左記を実施する上での基本方針

ダム現場に役に立つCMED会

CMED会の活性化

## (3) 具体的検討内容

現場支援の方策 ・----ダム現場に有益な支援方法

- ・現場支援(何が求められているか? 支援は可能か? 支援方法は?)
- ・三者協議の効率的な運用方策とは?

地区研修会で三者協議に関する意見が多く、H20 年度は意見交換会の場でテーマに取り上げ制度化を視野に入れた取り組みの実施 今年度は実現可能な仕組みの検討

平成 20 年度実施のアンケート結果では、CMED 会の活動に対し技術情報や現場情報の提供を望む声が多いため、以下の検討を行う。

1. 現場共通の要望を把握

(アンケート結果、地区研修会の意見から共通する要望を拾い上げる)

2. 支援方法の検討

(情報の提供方法、CMED 会としての支援可能な方策を検討し具体化する)

## 【検討上の課題】

- ・CMED 会としての支援がどこまで可能か(担当する部署の確保)
- ・従来の情報提供等の支援に対し、さらにどのような付加価値を増すことができるか
- ・個別の現場の支援を行う場合に、どの様な方法があり得るか

## 人材育成・人材活用の方策 ・-----技術の継承やOB会員の活用方法

- 若手技術者の育成方法はどのように行うべきか?
- ・OB の活用方法(現実的に可能な方法としてどのような方法があるか?)

ダム事業が減少する状況下で、技術者育成や技術伝承を図ることが重要であり、OBの協力を得ることも視野に検討を加える。(組織の検討)

- 1. 人材育成 若手技術者への技術の伝承(例)
- a ) 若手中心の勉強会、見学会の開催

多忙な業務の中で、本人が出席しやすいような仕組みを検討

b ) ホームページの活用

ダム関連技術を集積し、会員以外の技術者にも開放 技術ノウハウ、失敗、成功・・・・様々なデータを集積し、自由な活用の場を設ける

c ) 教本の出版····・・『多目的ダムの建設(施工者バージョン)』の出版

解説本、攻略本的意味合い(実施工に即した解説を中心にした教本であれば利用し易い)

- 2.0B会員の活用方法
- a) 各生活基盤近隣で開催されるイベント(PR含む)等の補助 交通費等はCMED会が負担し、活動しやすい環境作りを行う
- b ) 若手技術者の教育活動への協力依頼

長年培ってきた技術など、OBの生の声が聞ける機会を設ける

c ) 新組織(仮定)の中での業務担当

ダムに関するコンサルティング、設計業務 安全コンサルタント業務 ダムに関するCMR業務 ダムに関する現場監督員業務(発注者)

ダムに関する施工管理業務(施工者)

## 【検討上の課題】

- ・多忙な現場で働く若手技術者が、積極的に講習会等に参加できる仕組み作り
- ・若手技術者の教育にはマンパワーが必要
- ・OB活用の場合には、経費 等の問題を解決する必要あり

## 調査研究 ・-----技術や契約制度等に関する調査研究活動の方向性

- ・今後求められる調査研究活動は?(新技術,リニューアル技術,トラブル事例,リスク分担 他)
- ・合理的な調査研究活動のやりかたは?

これまでに実施したアンケート調査結果をみると、新技術やダムのリニューアル技術についての 調査研究活動を望む意見が多いことを踏まえ、以下の事項を検討する。

- 1. 現場に役にたつ新技術とは何か(地区研修ではアンケート結果を紹介し、議論する)
- 2. ダムのリニューアル技術に関して、施工者として研究すべき技術を検討する

#### 【検討上の課題】

- ・技術競争がますます激化する現状で、会社間の垣根を越えた新技術に関する調査、研究、提案開 発等を行うことが可能か。
- ・活動内容について、施工技術研究会(ダム協会)等と調整や役割分担を明確にする必要がある。 (例)

ダムの入札制度に係わる問題の検討

CMED会の入札検討部会 ~ 施工技術研究会第一部会,大ダム会議プレキャストについて

ダム現場の安全検討部会 ~ 施工技術研究会 調査部会第1班

## 広報活動の方策 ・----効果的な広報活動の方法

・誰にどのような情報を提供するのか・・マスメディアや教育機関へ情報発信する場合の方法は

・情報発信の手段や方法をどのようにするか

アンケート調査では広報活動を望む声が多いが、対応には短期的に対応可能なものと長期的に 臨むものを整理し、対象者と発信する内容を検討していく必要がある。

1.ホームページからの発信------ 一般者(ダムマニア)のアクセス数を増やす

《一般向けコンテンツの充実》: ダム関連グッズ 一研支援 現場見学会

《メンテナンスの充実》: 外注 専従

2.マスメディアへの発信------ 友好的な記事の掲載を増やす

投稿 広告 記事の投込(業界紙)

3. 教育機関への発信------ 教育機関との接点を増やす

現場見学 出前講座 ダムどこ 教育資料

4. ダム現場からの発信------ 地域住民との接点を増やす

: 現場見学 地域行事への参加 ボランティア活動

#### 【検討上の課題】

・長期的な対応が必要であり、常設の広報部会等を組織する必要がある(参:土工協など)

・マンパワーや費用が必要であり、OBの協力を検討する必要もある

## 組織のあり方 ・----独立性を含めたСMED会のあり方

・ C M E D 会費の推移予測(予算予測)・地方会員の活性化(組織)は?

・法人化のメリット等は?

- 1. 今後5年後、10年後を目途としたCMED会員の年齢構成とCMED会予算のシュミレーシ ョンを行い、運営方法等を検討する。
- 2. CMED会員, OB団体及びCMED会自体を法人化した場合のメリット・デメリット等を整 理する。
- 3. NPO法人の形式、法人化の要件、手続き等について情報収集を行う。

#### 【検討上の課題】

- ・СМЕ D会員, ОВ団体の結成が可能であるか? (活動範囲、組織をどうするか。)
- ・OBの活動内容は?(アンケート結果 貢献する場合は技術的事項での意見が多い)

# (4) 実施スケジュール

5~6月度 常任幹事会 意見

・活動計画修正 ・検討実施

## 地区研修会(7月~8月)意見

・活動計画修正 ・検討実施

10月度 常任幹事会 中間報告

・検討内容の修正 ・報告書作成

平成22年2月度 常任幹事会 最終報告案

・報告書作成

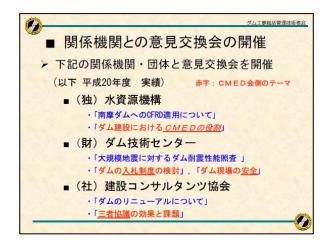
## 平成22年3月度 常任幹事会 最終報告

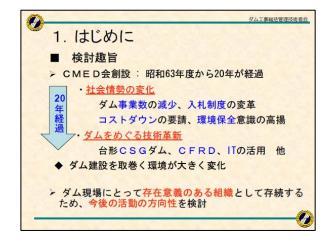
### 地区研修会 参考資料



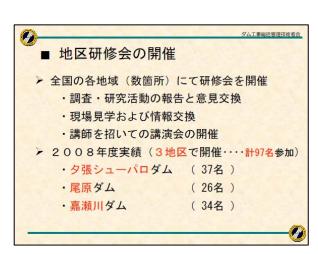


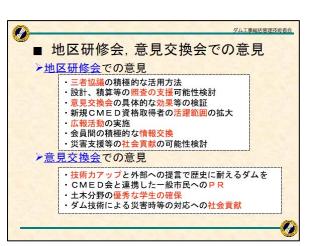






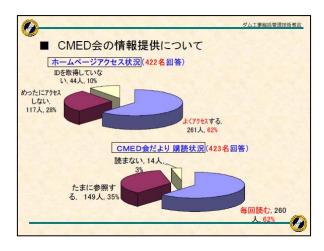


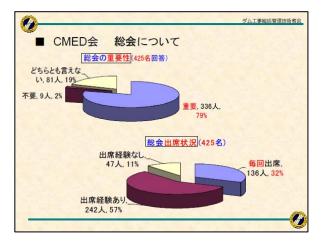


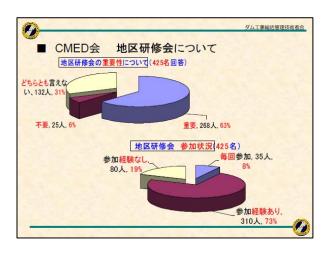


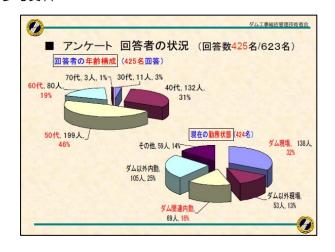
### 地区研修会 参考資料



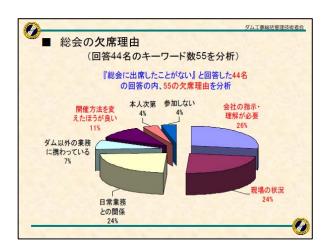


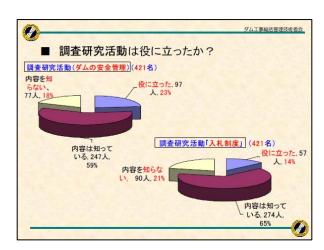












### 地区研修会 参考資料

